

平成 29 年度第 2 回市立伊丹病院地域医療支援委員会議事録

開催日	平成29年10月26日(木)	時間	13時45分 ～14時15分	場所	市立伊丹病院 くすのき講堂
出席者	<p>委員： 常岡委員長(伊丹市医師会会長)、藤末委員(川西市医師会会長)、木村委員(三田市医師会会長)、黒田委員(尼崎市医師会会長)、森田委員代理として飯田委員(伊丹市歯科医師会副会長)、千葉委員(伊丹市薬剤師会会長)、清水委員(兵庫県伊丹健康福祉事務所長)、辻委員(伊丹市消防局長)、坂本委員代理として藤本委員(伊丹市健康福祉部長保健医療推進室長)、岡野委員(学識経験者)、中田委員(伊丹市病院事業管理者)、飯石委員(市立伊丹病院病院長)、関委員(市立伊丹病院副院長)、大迫委員(市立伊丹病院看護部長)、米倉委員(市立伊丹病院事務局長)</p> <p>委任状： 酒井委員(宝塚市健康福祉部長)、高見委員(三田市健康福祉部長)、根津委員(川西市健康福祉部長) 欠席： 末岡委員(宝塚市医師会会長)</p> <p>オブザーバー： 山本(市立伊丹病院副院長)、筒井(市立伊丹病院副院長)、三木(診療部長)、萩原(放射線診断科主任部長)、勢旗(医療技術部放射線担当技師長)、五十嵐(薬剤科長)</p>				
議題内容	<p>■ 開会のごあいさつ</p> <p>本日はお忙しい中、平成 29 年度第 2 回市立伊丹病院地域医療支援委員会にお越しいただきましてありがとうございます。本日は、地域医療支援病院としての市立伊丹病院の医療の現状と報告をいただきます。これからの連携をいかに高めていくのか、そういう議論をしていきたいと思えます。</p> <p>■ 委員紹介</p> <p>席次順に紹介 出席者過半数を超えているので本会は成立することを報告。 本委員会は「公開等および傍聴についての要綱」第 2 条ならびに第 3 条による公開となっており開催案内したが傍聴希望者は無。 ・本委員会は議事録作成のため録音している。 ・会議録の記載内容回</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.開催の日時および場所</li> <li>2.出席した委員、臨時委員、専門医委員および関係人の氏名</li> <li>3.議題およびその内容</li> <li>4.議題の要旨</li> <li>5.議決事項</li> <li>6.その他委員長が必要と認める事項</li> </ol> <p>討議の中での発言内容、発言者の氏名は記載無し。 第 18 条により 会議録は市立伊丹病院ホームページにて公開。</p> <p>■ 議事署名人の指名について(2名)</p> <p>・常岡委員長より指名 飯田委員、辻委員に依頼したい。 両者共に了承。</p> <p>■ 議事</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 紹介患者に対する医療提供について             <ul style="list-style-type: none"> <li>資料 1-① 1-② 1-③ 1-④ 1-⑤に従って説明</li> <li>資料 1-① 紹介率 77.4% 逆紹介率 96.2%で、承認要件を満たしている。</li> <li>資料 1-② 前年比較にて若干減少しているが、マンモグラフィの件数が減少した影響と考えられる。</li> <li>資料 1-③ 入院患者の 35.9%が紹介を受けた患者である。</li> </ul> </li> </ol>				

資料 1-④ 紹介患者の 79%が地域医療連携室を利用され受診された。

資料 1-⑤

住所地別紹介患者数では伊丹市、宝塚市、川西市の順となっているが、住所地により紹介される診療科に違いがあるのか。

→ 特に目立って違いはないが、整形外科には遠方の地域医療機関からも紹介をいただいている。

伊丹市は、マンモグラフィのクーポン券を発行しているのか。

→ 発行している。

## 2) 救急医療の提供について

資料 2 に従って説明

前年度と比較して、救急搬送数、入院患者数および入院化率は増加している。

今期において、態勢など何か変わったことなどあるか。

→ 本年 4 月より、循環器内科において地域医療機関の医師ならびに消防隊から当院循環器内科医師に直接つながる直通のホットラインの構築、運用を開始した。

循環器内科の常勤医は何名いるのか。

→ 6 名

不整脈の専門の先生が着任されて、アブレーションが出来るようになったと聞いている。

→ 循環器内科部長、山本が着任し対応している。

## 3) 地域の医療従事者に対する研修について

資料 3 に従って説明

地域医療機関の先生との勉強会やコメディカルスタッフ向けの研修会は人気が高いのか。

→ 院内職員対象の研修、感染、医療安全等をオープン化し、地域医療機関の登録医をはじめコメディカルスタッフにもご参加いただけるようにしている。受講後は受講証を発行している。

研修は平日におこなっているのか。

→ 院内職員対象の研修は、平日の 5 時以降に行っている。曜日等は講師の都合により決定している。

院外、登録医の先生方対象の勉強会等の開催については、何曜日に設定しているのか。

→ 登録医総会、地域医療連携懇談会に関しては、木曜日の午後に設定している。

## 4) 開放病床の運用実績について

資料 4 に従って説明

他の病院でも可動していないような話を聞いたが、伊丹病院においても開放病床の利用率は減っていく傾向にあるのか。

→ 減少はしているが、固定されている登録医の定期利用により、ゼロにはならない。一定の需要はある。

## 5) その他

資料 2 における救急患者数について、循環器内科の医師数と比較して、受け入れ数が少ないように思われるが。

→ この表においては、内科にも含まれているため、循環器内科としては、数が少なくなっている。



■ 閉会のごあいさつ

本日はお忙しい中ご出席くださり誠にありがとうございます。29年度前半の地域医療支援病院としての当院の取組み状況をご報告申し上げます。ご紹介いただいた患者さんの数、そのうち入院となった患者さんの割合は昨年とほぼ同じ状況で経過しています。また、紹介患者さんの全入院患者さんに占める割合も昨年とほぼ同じで約36%でした。感謝申し上げます。昆陽池さくら CLUB や診療所訪問などを通じて地域の先生方との顔の見える連携の構築を目指していますが、今後一層の連携を推進しこれらの数字をさらに高くしていきたいと思えます。また救急外来の患者数は、昨年初めて1万件を超えましたが、今年も1万件を超えそうです。医局会などで救急患者をできるだけ受け入れるようにと指導していますので、お断り件数は年々減りつつあります。

来年度も臨床研修医の定員は10名ですが、ありがたいことに今年は36名がアプライしてくれました。そのうち17名が当院を1位指名してくれましたのでお蔭様で10名フルマッチとなりました。地域医療の研修でまたご面倒をおかけしますがよろしくお願いたします。

本日は本当にありがとうございます。今後ともご支援のほどをお願い申し上げます。閉会のご挨拶とさせていただきます。

■ 謝辞

いつも市立伊丹病院の「地域医療支援委員会」にご出席頂き、適切なご指導を頂きましたこと感謝しております。

阪神北圏域には三次救急医療が無いことから、兵庫県の地域医療構想調整会議からは阪神南・北圏域の統合等の意見も出始めております。ここにお集まりの関係者の皆様も阪神北圏域の患者をどのような医療体制で治療していくかを、具体的に議論していくことが必要と考えておられると思っております。当院での「地域医療支援委員会」は、その極一角を占めているだけですが、ここにおられます委員の皆様は、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町を含めた北圏域の全ての地域医療に関わっておられることと思っておりますことから、これらの地域医療を全体として纏めるお役目をさせていただければ幸いです。

今後とも地域の連携を深めながら、阪神北圏域の地域医療を守っていききたいと考えておりますので、継続したご協力、ご指導を宜しくお願し、本委員会の謝辞に代えさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

別紙のとおり「平成 29 年度第 2 回市立伊丹病院地域医療支援委員会議事録」として作成する。

作成者 平成 29 年 11 月 17 日

常岡 豊



印

別紙のとおり「平成 29 年度第 2 回市立伊丹病院地域医療支援委員会議事録」として確認する。

議事録署名人 平成 29 年 11 月 21 日

辻 博夫



議事録署名人 平成 29 年 11 月 24 日

飯田 良治



印